



## 「海から見た地球 ～気候変動・気候危機・気候正義～」

講師 武本匡弘氏

プロダイバーとして世界中の海にもぐり、大型ヨットを走らせて環境活動家を育て、プラスチックフリーのお店「エコストアパパラギ」（藤沢市）まで開業してしまう、武本さんの実地の経験や科学的な数字に基づく話は、どれも説得力と迫りに満ちていました。先行きの見えない深刻な内容であるにも関わらず、ユーモアに満ちたお話しぶりにすっかり引き込まれ、あっという間の 2 時間でした。



武本さんが「地球がおかしい」と気づいたのは、サンゴの白化現象に遭遇してから。2000 年以降、世界中のあちこちで白化現象がすすんでいるといいます。海水温の上昇だったり、基地から流される汚染物質だったり、原因を探っていくと最後は「人間」に行きつきます。地球温暖化の原因になっている CO<sub>2</sub> は、その 7 割が世界のたった 10 か国からの排出なのにも関わらず、その結果として起きている気候変動によって暮らしを脅かされ苦しめ

られるのは発展途上国の人たちや貧困層や未来の世代。「だれかを犠牲にして成り立つ社会は、決して持続可能なものにはなり得ない。気候変動は人権問題である。」これが「気候正義」の考え方です。

EU 諸国では、子どもたちはそのことを小学校 3・4 年生で学んでいるそうです。まさに世界では常識になっているこの「気候正義」の考え方は、日本ではまだまだ広がっていないといえず、もっともっと語り伝える必要があると感じました。ミクロネシアの島々では、かつては漁業を生業にして生活が成り立っていたのに、魚が獲れなくなり、食べ物を買うために現金が必要な生活に変わらざるを得ませんでした。そのため多くの若者が生活のために米軍に兵隊志願し、米本国出身者の 3 倍もの戦死者を出しているという話に胸が痛みました。



武本さんの話は、海に漂う大量のプラスチックごみやマイクロプラスチックの話、海あため装置である原発の話にまで及び、プラスチックフリーや再生可能エネルギー由来の電気を選択する生活提案、若い世代や子どもたちへの教育の話へと展開しました。そして、ひとりひとりの選択が社会を変えることにつながると強く訴え、「知ることが希望だ」と講演を締めくくられました。

気候危機に対して私たちは何ができるのか、人は自然の一部であるという感覚をどれだけ取り戻せるかが鍵だと強く感じた講演でした。

詳しく知りたい方は、次の著書をお読みになることをおすすめします。

『海の中から地球が見える～気候危機と平和の危機～』

武本匡弘著（あけび書房 2023 年）



2023 年 11 月 23 日 エコメッセ環境講演会報告 加瀬和美

能登半島地震義援金募集中！

1 月～2 月に全店舗で義援金を集めます。2 月 1 日の全店舗の売り上げを寄付します。

寄付先：珠洲市社会福祉協議会

\* 珠洲市は、昨年 5 月の地震で被災しました。今回の地震で更なる被害を受けています。



## BDFの取り組みから広がる地域循環共生の環（わ）

ワーカーズコープ 東京バイオマス地域福祉事務所  
あぐり〜ん TOKYO 所長 黒田志保氏



廃食油回収店舗メンバーで「あぐり〜ん」を見学  
2022/7月

「あぐり〜ん東京」所長の黒田志保さんのお話を伺いました。ご自身の自己紹介から始まり、ワーカーズコープ「あぐり〜ん東京」の設立に至ったいきさつやバイオディーゼル燃料（BDF）を製造販売することで持続可能な地域社会を作っていくという目標をもって活動している様子を楽しくお話を伺いました。黒田さんは、劇団に入って俳優もされる傍ら、ヘッドネーションをしたことなどがきっかけで世田谷区でのひきこもりの子どもたちの就労支援を行ってきたそうです。そして、困難を抱える方々と協働労働による事業を立ち上げ、職員全員が対等な立場で経営を担っている

ということでした。たまに「この車はてんぷら油で走っています」というメッセージを付けた車を見かけることがありますが、「あぐり〜ん東京」は、その自動車や発電機が使用する燃料を製造販売しているということでした。

扱っている BDF とは、廃食油を精製したものです。食用油（固まるためラード油、パーム油以外の植物油）は、光合成を行い CO<sub>2</sub> を吸って酸素 O<sub>2</sub> を出している植物が原料であるため、排出される CO<sub>2</sub> = ゼロ換算（カーボンニュートラル）となる地球環境にやさしいエネルギーとなるということです。10ℓの廃食油からは、9ℓの BDF とグリセリン（化粧品等にも使用されている油）ができ、それぞれを適切に活用しています。

では、どのように集めているのか。廃食油は、常温では火をつけても燃えない油です。消防署が「てんぷらをしているときには目を離さないように!」というのは、食用油の発火点が約 270℃以上でだからです。各家庭で油の使用後にごみをろ過してもらい、それをペットボトルに入れてもらって回収しているそうです。

また、資源循環型コミュニティー（市民回収）も各地で増加しており青梅市では、公用車で使用、あきる野市では市民回収、足立区では清掃のパッカー車の燃料、荒川遊園のイルミネーションや保育園の給食の廃油を使用して保育園のバスに使用していました。このほか帝京大学やケータリング会社などと「廃食油を集めること」「使用すること」を様々な市民や企業とコラボレーションしながら、地球環境を守り、循環型社会をつくることを広めているそうです。

最後に、今レートも上がり関心の高まっている SAF（持続可能な航空燃料）について伺いました。廃食油を SAF で使用するためには、あぐり〜ん東京のような精製方法ではなく、さらに大きなエネルギーを使用して高温高压で精製するということでした。EU ではラードを、アメリカではペットボトルから作るものが多くなっています。ジェット機が1時間飛行するためには、1万ℓ、戦闘機では3万〜5万ℓが必要だそうです。大きなエネルギーを使用して作り、大量消費する SAF は、けっして環境にやさしいエネルギーではないと言えらると思いました。

これまで、てんぷらなどをした際の油の処理は何か吸わせて可燃ごみに出していましたが、これをほとんど100%エネルギーに変換できることを学び、廃食油の活用は持続可能な循環型社会をつくるための一つの方法であることが分かりました。黒田さんは最後に、「エコメッセでてんぷら油を集めてください」とおっしゃっていました。



「あぐり〜ん」の黒田志保氏  
2022/7月撮影

すでに、昭島店、府中店、調布店では廃食油を集めています。各店舗に広げるためには、進めている3店舗の経験や現状の共有を行うことや、スペースや手間、安全面、広報など多くの検討が必要ですが、前向きに進めていけたらいいなと思いました。

2023/12/13 エコメッセ 経営会議 学習会  
報告 伊藤ひとみ

## インフォメーション

「再生可能エネルギーを学ぶ」

歌川学（産業技術総合研究所）さんのお話と  
デンマークの再エネ取組み視察報告（多摩北生活  
クラブ生協理事 岡田さん）

日時：3月17日（日）13：30～16：00

会場：アキシマエンス